

五ヶ丘まちづくりニュースレター



第1号



五ヶ丘のまちづくりを住民と行政が一緒になって考える取組として、12月14日（土）に「五ヶ丘まちづくりミーティング」を五ヶ丘小学校と五ヶ丘東小学校で開催し、合計で195名の参加がありました。

ミーティング当日は、五ヶ丘自治区連合会森本会長のあいさつに始まり、豊田市より五ヶ丘地区の現状の説明、東京大学大学院教育学研究科牧野教授の講演の後、参加者からの質疑応答や意見交換を行いました。

五ヶ丘のまちづくりを考える取組が始まりました！

五ヶ丘小学校



五ヶ丘東小学校



① 主催者あいさつ



森本会長から、「五ヶ丘は住宅開発から50年以上が経ち、開発当初からは、家族や年齢の構成が変化している。」「五ヶ丘の将来について、住民の意見を聞くきっかけづくりとして、今回のミーティングを開催するに至った。」「私たちのまちを行政に任せるのではなく、より楽しく、住みやすく、活力あるまちにしながら、次の世代に五ヶ丘の価値を引き継いでいくためにも一緒に考えていただきたい。」とのあいさつがありました。

② 講演 ふるさとをつくる ～住民が主役のまちづくりを考える～



愛知県刈谷市出身の東京大学大学院教育学研究科教授の牧野篤（まきのあつし）様から、「ふるさとをつくる～住民が主役のまちづくりを考える～」と題して、講演がありました。

講演では、健康・人間関係に次いで人生選択における自己決定が幸福感を決める要因であることや、島根県益田市で行われている子どもと大人が語る「カタリ場」の取組について紹介があり、子どもたちを起点に地域の大人も関わりながら持続可能な社会をつくることが重要であるとのお話がありました。

③ 五ヶ丘のこれからについて考えよう（質疑応答、意見交換）

住民からの質問に対して、牧野教授、豊田市、五ヶ丘自治区連合会で回答しました。

（質問）自治区の世帯数も減ってきており、五ヶ丘で8つある自治区を1つか2つにまとめたらかどうか。また、小学校を1つに統合する話も出てきているので、学校も1つにして、地域全体で子どもたちを見守っていくのはどうか。

（回答）行政から与えられるのではなく、住民自ら地域の形を作っていくことがいいと思う。

（質問）五ヶ丘浄化センターや五ヶ丘運動広場のその後の活用方法はどうなっているのか。

（回答）現時点では未定のため、今後、五ヶ丘のまちづくりの動きと合わせて、住民の意見を聞きながら、活用方法の方向性を決めていきたい。

（質問）例えば、飲酒しても車で帰ることができる自動運転や、最先端の介護ロボットの導入など、五ヶ丘の特性をいかし、イノベーションを全面に出したまちづくりを進めてほしい。

（回答）民間事業者の参画や革新的な技術開発も見据えて、五ヶ丘のこれからを住民の皆さんと一緒に考えていきたい。

（質問）全国と比べて、五ヶ丘の特徴を教えてください。

（回答）今回のミーティングにたくさんの方が集まっており、まちづくりに関心のある住民が多いことや、自動車関連企業出身者が多く、物事を合理的に考えることができる気質がある。